

子どもを守るべき大人の健康も大事

3・11 後、西日本の野菜を福島で販売しようと立ち上げたお店「野菜カフェはもる」を手伝ってくれていたAさんが、お子さん3人に見守られながら、5月31日に旅立ちました。

昨年7月、七夕の短冊作りのイベントに参加してくれ久しぶりにお会いして話が弾みましたが、体調があまり良くないと話して帰られました。

その後、体調が悪い原因がわかったと電話があり、何かお役に立てることはないかと、直接会って話しをしました。

「ステージIVの末期がん、手術は出来ないけど、抗がん治療もしたくないので断り、食事療法、自然治癒力に任せる。子どもたちのことが一番の気かり。歩いて5分のこの場所に来るのさえやっとなこと」と話してくれました。

私は「末期がんなら、ヘルパーも使えるので、もし、家事をするのが大変なら、私の事業所でもお手伝いできますよ」と伝えると、「自分に万が一のことがあった場合、残していく子どもたちが自分で生活できるように、今は、子どもたちに家事を手伝ってもらいながら、教えていくけど、どうしてもできなくなったら考えてみま

す」と話されました。

母子家庭だったAさんは、震災当時、まだ小学生だったお

子さんを保養に連れて行きながら、子どもたちに健康被害が出ないようにと行動していたのです。20歳前後の3人のお子さんを残して逝くことは、どんなにか無念だったことでしょう。

福島に留まって生活したことが、今回のことに繋がったのではないかと

福島でがんや急性心不全で亡くなった方がいると聞くと、毎回そう思うことが本当に悲しいです。

「子どもを守るべき大人が健康で無ければならぬから40歳以上は食べて応援は絶対におかしい。大人も子どもも安全な食材を食べるべきだ」と言っていた知人がおりました。

Aさんのように、子どもを守るべき大人が一人しかいない家庭では尚のこと知人の言葉が胸にしみます。

去年の七夕の願い事は、何だったのでしょうか？ 今年の七夕は、きっと子どもたちのことを空の上から見守ってくれていたことでしょう。Aさんのご冥福をお祈りいたします。



福島診療所建設委員会代表 佐藤幸子

ふくしま共同診療所

【診療科目】 内科・放射線科・循環器科・リウマチ科

【休診日】 毎週水曜日・祝日（月曜午後休診）

【診療時間】 9:30～12:30 / 14:30～18:00

土・日曜日診療を行っております

〒960-8068 福島市太田町20-7 佐周ビル1階
（福島駅西口徒歩5分、福島民報ビル南側）

TEL 024-573-9335 FAX 024-573-9380

<http://www.fukushimacollaborativeclinic.jp/>

SunRise No.17 2018年8月1日発行

福島診療所建設委員会



福島診療所建設委員会

〒960-0662
福島県伊達市保原町柱田字平84 渡辺 馨
電話 070-5476-6162
WEB <http://www.clinic-fukushima.jp>
E-MAIL info@clinic-fukushima.jp

甲状腺検査の学校健診の継続を！

ふくしま共同診療所院長 布施 幸彦

——つまり安倍政権お得意の「証拠隠滅」ができるというわけです。

7月8日の評価部会では、高野部会員らがインフォームドコンセント（同意書）の「健康上の利益があるように誤解させる文面」を削除し「有害性を明らかにする」修正案を出しましたが、他の委員からは3つの民間病院の「小児甲状腺がんは進行が早く、浸潤、再発の危険も大きい」というデータが紹介され、議論そのものは先送りになりました。検査打ち切りを許さないたたかいは、これからが本番とも言えます。

6月18日の検討委員会では、小児甲状腺がんが新たに2人増えたことと、県の支援事業対象者のうち、検討委員会の集計に含まれていない子どもが5人いることも紹介されました。7月8日の評価部会では、経過観察として集計から

福島では現在、甲状腺検査の縮小、学校健診を続けるかどうかの攻防が焦点になっています。県は表向き「縮小は考えていない」とする一方、「県民健康調査検討委員会（以下、検討委員会）で結論が出れば尊重する」とも言っています。検討委員会の方は、昨年秋の大幅改組で高野徹委員（大阪大講師）ら、安倍政権に近い学者が入り、星座長も地元紙で「過剰診断など検診のデメリットがある」と断言しています。

前々回の甲状腺検査評価部会（以下、評価部会）以来、学校検診は「強制になるので人権問題だ」という議論がされました。県立医大などの「現場」は、検診を抑制するためにやっきになっており、18歳以上の受診率は16%にまで落ちています。「残りは高校生以下の学校検診だ、そこを片づけさえすれば検診の統計的意味を無効化できる」

第6次署名提出行動

1万筆を追加提出しました

（合計4万7千筆）



6月28日、福島県庁で「被曝と帰還の強制反対署名」の提出を行いました。県民健康調査検討委員会での学校健診打ち切りの動きに対して、学校健診の継続を強く申し入れました。

被曝と帰還の強制反対署名

52,914 筆（7月17日現在）

署名運動へのご協力をお願いします

被曝帰還反対

検索